



森林環境教育ネットワークメールマガジン 第178号 (平成 29 年 8 月 25 日)



( 目 次 )

- 1 <林野庁プレスリリースから> 平成 28 年の特用林産物の生産動向について
  - 2 <山の日記念行事の開催> 失われた緑。よみがえる足尾は今！
  - 3 <コラム> 森林環境教育の現場から(119)
  - 4 <森林・林業白書から> 「山の日」関連のイベントの実施
  - 5 <樹木のことなど(99)> セイヨウタンポポとニホンタンポポ
  - 6 <イベント情報>
    - ◆第1期「森林ボランティア青年リーダー養成講習 in 四国」
    - ◆八ヶ岳環境映像祭2017
- ☆ 事務局から



森林環境教育ネットワーク <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>  
《バックナンバー<http://www.shinrinreku.jp/feenet/php4/mlbk/index.php>》  
《イベント情報の登録・閲覧 <http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>》  
一般社団法人全国森林レクリエーション協会 <http://www.shinrinreku.jp>



---

## 1 <林野庁プレスリリースから> 平成 28 年の特用林産物の生産動向について

---

林野庁は、平成 28 年の特用林産物の生産動向を取りまとめました。

### 1 生産動向の公表について

林野庁は、毎年、特用林産物(注)の主要な品目について生産量と生産額の調査を行い、生産動向を公表しています。

この調査は、農山村の生産活動に大きく寄与している特用林産物について生産量等を継続的に把握し、それらの変動を分析することにより、需給の安定等に関する施策を推進することを目的としています。

### 2 平成 28 年の生産動向のポイント(対前年の増減)

- ・きのこ類の生産量は、1.0%増加しました。きのこ類のうち、乾しいたけは 3.9%、生しいたけは 2.1%、それぞれ増加しました。
- ・その他の食用特用林産物の生産量では、たけのこが 22.8%と大きく増加しました。
- ・主な非食用特用林産物の生産量は、木炭が 5.4%減少し、うるしが 5.8%増加しました。
- ・平成 28 年の総生産額は 2,812 億円で 2.8%増加しました。

(注)特用林産物とは、本来森林や原野から得られる産物のうち一般木材を除いたものの総称であり、代表的なものとしては、しいたけ、えのきたけ、ぶなしめじ等のきのこ類、樹実類(じゅじつるい)及び山菜類といった食用物、うるしや木ろう等の伝統的工芸品の原材料、竹材、桐材といった非食用物があります。

詳細については、次の URL のホームページをご覧ください。

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/tokuyou/170825.html>

---

## 2 <山の日記念行事の開催> 失われた緑。よみがえる足尾は今！

---

8月4日(金)、「山の日」記念行事実行委員会(構成団体:一般財団法人日本森林林業振興会、一般社団法人日本森林インストラクター協会、一般社団法人全国森林レクリエーション協会)が主催する足尾森林再生地域の見学会と記念講演「失われた緑。よみがえる足尾は今！」(後援:林野庁、栃木県、一般財団法人全国山の日協議会)が開催されました。

足尾は、銅の製錬による亜硫酸ガスや森林の伐採、山火事などによって失われた森林が多くの人たちの努力によって再生しつつあります。足尾治山事業は、平成25年に林野庁が「後世に伝えるべき治山」に選定するとともに、平成28年に日本森林学会によって「林業遺産」に登録されています。

当日は、来賓、公募による一般参加者及びスタッフ、約80名が参加し、栃木県日光市足尾の松木沢及び久藏沢の見学が行われました。松木沢では、足尾で緑化活動を続けるNPO法人足尾に緑を育てる会副会長の秋野峯徳氏から足尾でのボランティア活動の歴史や緑化活動の概要を説明していただきました。また、久藏沢においては、日光森林管理署長の浪岡保男氏から足尾における治山事業の歴史や成果について説明をいただきました。

午後からは、銅(あかがね)親水公園にある足尾環境学習センター研修室において、太田猛彦東京大学名誉教授の「日本の森林のこれから―「山の日」に森林の将来を考える―」と題した講演会が開催されました。太田名誉教授からは、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という「山の日」の趣旨の「山の恩恵」とは、我が国においては、山地と森林が共同して発揮している多面的機能であるとし、森林利用と森林の関係の歴史を振り返り、森林が復活し豊富な資源を有している現状から、森林の多面的機能を積極的に利用し、持続可能な社会の維持に貢献していくことが重要であるとの主旨のお話がありました。

---

## 3 <コラム> 森林環境教育の現場から(119)

---

北海道名寄市で「森のようちえん」の活動も始まりました。目的は「地域の自然に気づく」です。「森のようちえん」の教育効果は数多く、幼児を育むことを森で行うことから、幼児のやりたいことを自由にさせる活動が多く見られます。でも、今回の依頼は目的をこちらに委ねてきました。ならばと、思いっきり「気づき・観察」に的を絞りました。下見の結果、その日の自然の宝物はオオルリボシヤンマでした。まず、いわむらかずおの「14匹のとんぼいけ」の読み聞かせをしてから、トンボ池での観察です。ナツアカネ、アオイトトンボ、オオルリボシヤンマが飛び交います。読み聞かせの効果か、子どもたちの目はキラキラ光り歓声が飛び交います。「この綺麗なトンボたちが生きていけるのは、トンボ池があるからなんだよ・・・」水生昆虫から生き物のつながりの話をしていきます。

「でも、このトンボたちも鳥に食べられたりするんだよ・・・」「えっ？食べられちゃうの？」子どもたちは少しショックを受けたようです。そこで、鳥に食べられた羽化したばかりのエゾゼミの死骸を見せると・・・「見せて～」以外に冷静！！その後、オオルリボシヤンマを捕まえ観察です！「大きい～」「きれい～」子どもたちの目は蜻蛉玉のようでした。

(森林インストラクター 柳原 高文)

---

#### 4 <森林・林業白書から>「山の日」関連のイベントの実施

---

林野庁では、平成 28(2016)年から8月 11 日が祝日「山の日」に制定されたことの意義を広く周知するため、山の日制定記念 イベントを実施している。平成 27(2015)年度には森林教室 や育樹祭など、計 273 回にわたって実施した。

東北森林管理局山形森林管理署最上支署(山形県最上郡最上町)では、平成 28(2016)年6月に行われた「最上地域森の感謝祭 2016」において、鳥の巣箱づくり体験コーナーを設置し、山の日 の普及啓発に取り組んだ。

(平成28年度森林・林業白書 事例から)

---

#### 5 <樹木のことなど(98)> セイヨウタンポポとニホンタンポポ

---

街中の空き地や野原で見られるタンポポは、在来のカントウタンポポなどではなく帰化植物のセイヨウタンポポばかりです。もともと、フランスなどヨーロッパや中東地域では、サラダなどの野菜として食用にされていたといわれます。明治の初めごろ、セイヨウタンポポは、野菜として札幌に導入され、札幌農学校がはじめだったと言われてい

ます。  
タンポポは、キク科タンポポ属に属す植物で、日本には、カントウタンポポ、カンサイタンポポ、シロバナタンポポ、トウカイタンポポ、シナノタンポポなど多くの在来のニホンタンポポが知られていますが、これらの在来のニホンタンポポは 30 種以上になります。ニホンタンポポも古く江戸時代などには、救荒植物として利用されていたようです。明治に入っても日本人には、浸し物、和え物、汁の実、てんぷら、漬物、根茎をきんぴらにするなど多くの利用の仕方で、食用にされてきたといわれます。

タンポポの仲間は、ヒマワリやコスモスなどと同じく花茎の上に一つの花を咲かせますので、これを頭状花と言います。この頭状花は、真中の棒状に見える雌しべ、雄しべの筒状花と呼ぶものと花の周りの黄色い花弁、これを舌状花と呼ぶものから出来ています。

ニホンタンポポとセイヨウタンポポの見分け方は、簡単です。タンポポには、花の基部に緑色をした萼のように見える部分があります。この部分を総苞(そうほう)と言い、花の基部を包み込み支える役割をしています。この総苞片がセイヨウタンポポでは反り返っていますが、ニホンタンポポでは総苞片が重なり合って花の基部を花に沿ってしっかりと閉じていて包み込んでいます。両種の区別はこの総苞片が反り返るか、反り返っていないかで明確に識別できます。

(子ども樹木博士ニュース「質問コーナー(堀内孝雄先生)」から)

---

## 6 <イベント情報>

- ◆第1期「森林ボランティア青年リーダー養成講習 in 四国」
  - ◆八ヶ岳環境映像祭2017
- 

### ◆第1期「森林ボランティア青年リーダー養成講習 in 四国」

リーダー講座は、森林を保全する知識や作業方法が学べ、さらに森と寄り添って暮らす人とのお話の機会もあるリーダーになるための初心者コースです。

講座を通して、森を守るだけでなく、古くて新しい森と人との関係、継続的で切れない関係を育むきっかけをつかんでみませんか？

### 【カリキュラム】

- 第1回 2017年9月23日(土・祝)・24日(日) 日帰り2日  
【香川県さぬき市】オリエンテーション、実習(森林体験活動の実際)
- 第2回 2017年10月1日(日) 日帰り  
【香川県まんのう町】実習(手道具での間伐、枝打ち等)
- 第3回 2017年11月25日(土)～26日(日) 1泊2日  
【徳島県三好市】実習(手道具での道づくり等)
- 第4回 2017年12月3日(日) 日帰り  
【香川県さぬき市】森林の現状視察、ツリークライミング体験
- 第5回 2018年1月21日(日) 日帰り  
【香川県高松市】振り返り、今後に向けて

### 【対象】

18～40歳 ※初心者・経験者問いません！

- ・自然・森林が好きな人
- ・環境問題に関心がある人
- ・森林について考える仲間が欲しい人
- ・森林作業の技術を身につけたい人
- ・新しい活動を始めたい人
- ・継続して活動したい人

### 【定員】 10名程度

【参加費】 全5回分(1泊3食+懇親会、保険料等)

学生：5,000円(JUON会員：3,000円)

社会人：9,000円(JUON会員：5,000円)

※初回にまとめてお支払い頂きます。

その際のご入会でも会員割引が適用されます。

※一度納入頂いた参加費は、返金いたしません。

※都市部から実習地まで、車で移動します。

分乗にご協力頂いた場合、燃料代等は割り勘精算します。

【締切】 2017年9月15日(金)

※定員になり次第締め切ります。

※締切日過ぎてのお申し込みはご相談下さい。

【主催】 認定特定非営利活動法人 JUON(樹恩) NETWORK  
【協力】 さぬき市林業研究会、NPO 法人フォレストーズかがわ  
【お申し込み】

問合せ・申込先

認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK(樹恩ネットワーク)

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協杉並会館

Tel: 03-5307-1102 / Fax: 03-5307-1091

E-mail: juon-office@univcoop.or.jp

http://juon.univcoop.or.jp/

#### ◆八ヶ岳環境映像祭2017

今年度も八ヶ岳環境映像祭を開催いたします！

今年は「風の波紋」を上映。

参加費は無料、第2部にはレンジャーによるガイドウォークもあります！！

参加ご希望の方はふれあいセンターまでご連絡ください。

【日時】 2017年9月23日(土・祝)

13:00～14:40 第1部 「風の波紋」上映

14:50～15:50 第2部 レンジャーによるガイドウォーク

※第1部のみの参加も可能です。

【問合せ先】

山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

〒407-0301 山梨県北杜市大泉町西井出石堂 8240-1

申込み方法等の詳細については、次の URL のホームページをご覧ください。

[http://www.keep.or.jp/place\\_event/fureai/news/2017/08/2017-3.php](http://www.keep.or.jp/place_event/fureai/news/2017/08/2017-3.php)

※本ネットワークの「イベント情報」(<http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>)にご登録  
いただいたイベントや事務局にご連絡いただいた情報等の中から紹介します。

=====

☆ 事務局から

=====

8月も残すところ1週間となりました。東京地方は、8月に入り。連続21日間降雨を  
観測するなど、梅雨空のような天気が続いていました。今年の梅雨は全く梅雨らしさの  
ない日ばかりでしたので遅れてきた梅雨のようでした。

今年も全国各地で豪雨による災害が発生しました。被災地の皆様には心よりお見舞  
い申し上げます。

気象庁の統計を見ると、1時間に80ミリ以上の「猛烈な雨」が降った回数が、昨年ま  
での10年間では1980年代と比べて5割近く増えているそうです。線状降水帯という少  
し前までは聞いたこともない言葉を最近では頻りに耳にするようになりました。

明らかに環境が変わってきています。地球温暖化の流れの中で、どう対応していくの  
かが問われているような気がします。(K)

~~~~~

☆☆☆ご投稿等は E-mail: [feenet\\_info@shinrinreku.jp](mailto:feenet_info@shinrinreku.jp) までお寄せください。

[編集発行]

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F

一般社団法人 全国森林レクリエーション協会 森林環境教育ネットワーク事務局

TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472 E-mail: [feenet\\_info@shinrinreku.jp](mailto:feenet_info@shinrinreku.jp)

URL: <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>

~~~~~

